

第 24 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(ホール審査) 総評 高校生部門

●審査員 A

全国大会 123 名から選ばれた 30 名（海外参加者 1 名）だけあって、大変レベルが高く感心しました。練習曲も自由曲も非常に音楽的で完成度の高い演奏が多かったです。今後も順調に伸びられることを期待していますし、将来を楽しみにしています。

●審査員 B

美しい音を作るために、一つ一つの音を肩から生み出しましょう。そうすることで、芯があり豊かで丸く、歌うような響きが得られます。肘から弾かないように気をつけましょう。肩から指先が繋がっている感覚を感じてください。また、手を固めた状態で鍵盤を叩かないように。鍵盤は押さえつけるのではなく、強弱に合わせて深くまたは軽くなど、重さをコントロールしましょう。アーティキュレーションにも気を配ってください。アーティキュレーションは、音の役割とその音が小節の中のどこに位置しているのかに関係があります。

●審査員 C

皆さん、技術的には素晴らしく、機敏な動きと正確性をもって演奏されました。しかし、音の質に関して言えば、ショパンをもっとオペラ的な作曲家と捉えて頂きたいと思います。演奏する際に、あまり余分な力を入れすぎたり、頑張りすぎたりしないよう気を付けながら、ドルチェ・カンタービレの音色を探しましょう。

●審査員 D

アジア大会まで残っておられる方々の演奏で聞きごたえがありました。ただ音を並べて弾く、間違えずにきっちり弾くを超えて、楽譜から Chopin の心情を読み取っているか？音に表情があるか？語れているか？を重点的に聞かせていただきました。左右のバランスの取り方も難しいなと感じました。どのくらいのバランスで？もよく考えて、整理された立体的な音楽づくりができるといいですね。これからも音楽を追求して下さいませ。

●審査員 E

狭き門を通過されファイナルに残られた皆さんですから、どの方も良い資質がたくさんあって、レベルの高い演奏ばかりでした。技術面では優れているものの、表現が表面的で浅く、聴き手に熱量が伝わらない演奏もありました。表現するということが、一種の方にはまった外側から固めたようなオートマチックな演奏では、聴き手の心に深く語りかけることができません。自然にイメージーションを持って、自由に心から楽しんでいる演奏、作品を深く理解して自分の言葉で語り、音楽表現している演奏には、魅了されます。

●審査員 F

高校生とは思えない立派な演奏が多く聴かれました。ステージマナー、様々な音楽的表現が個性的でのびのびとし、技術的には問題がなく、これからが本当に楽しみです。何か言うとするば、和音の響きに関して、豊かな柔らかなバランスのとれた美しい響きを追求してください。自分の出す音を聴いて下さい。次々とショパンをたくさん勉強して下さい。楽譜からショパンの音楽を誠実に、深く読みとるように、さらに努力を重ねて下さい。